

渋谷駅周辺地区における再開発事業の進捗について

- 「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」の開業時期、
展望施設および産業交流施設の名称・ロゴデザインなどが決定
- 「道玄坂一丁目駅前地区」のビル名称・ロゴデザインなどが決定

東京急行電鉄株式会社
東急不動産株式会社

東京急行電鉄株式会社および東急不動産株式会社は、世界を牽引する新しいビジネスやカルチャーを発信するステージとして、「エンタテインメントシティSHIBUYA」の実現を目指し、2018年9月に開業した渋谷ストリーム、渋谷ブリッジなど、駅周辺における6つの大規模な再開発プロジェクトを関係者と協力して推進しています。

今般、2019年度開業予定の「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」の開業時期、展望施設および産業交流施設の名称・ロゴデザインの決定や、2019年秋竣工予定の「道玄坂一丁目駅前地区」のビル名称・ロゴデザインの決定などについて、別添のとおり発表します。

また、今後は2019年3月竣工予定の南平台プロジェクトや、2023年度竣工予定の渋谷駅桜丘口地区などが開業を控えています。

加えて渋谷では、渋谷駅周辺の動線の大規模な改良や、各街区の建物前への広場の設置・活用など、街の回遊性や駅の利便性向上を推進するとともに、「職・遊・住」の3要素融合する仕掛けをつくることで、エリアの魅力を高めるまちづくりを進めます。

各開発計画の詳細については、今後、逐次発表します。

以上



100年に一度と言われる再開発で、新たに生まれ変わる渋谷駅直結・直上の新ランドマーク 2019年秋、「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」開業

渋谷を一望できる地上約230m・360° パノラマビューを誇る展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」
社会価値につながるアイデア・新規事業などを共創していく産業交流施設「SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)」
各用途の名称・ロゴ・コンセプトを発表！

渋谷スクランブルスクエア株式会社、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社



▲SHIBUYA SKY俯瞰イメージ



▲SHIBUYA QWSイベントスペースイメージ



▲3階アーバン・コアイメージ(西側より)

渋谷スクランブルスクエア株式会社、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社は、「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟)」(以下、本施設)の開業時期を2019年「秋」とするとともに、展望施設・産業交流施設の名称・ロゴとコンセプトなどを発表します。

本施設は、渋谷エリアでは最も高い地上47階建てで、展望施設、産業交流施設、商業施設、オフィスにより構成されています。

14階・45階～屋上の展望施設の名称は、「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」と決定しました。日本最大級の屋上空間を有し、渋谷最高峰の地上約230メートルを誇るとともに、渋谷の中心に位置し、スクランブル交差点や、富士山、東京スカイツリー®などを一望できる360° パノラマビューを実現します。また、デジタルテクノロジーを演出に用い、来場者の感覚を刺激する体験型展望空間を展開予定です。

15階の産業交流施設の名称は、「SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)」と決定しました。コミュニティコンセプトを「Scramble Society(スクランブル ソサエティ)」とし、多様な人たちが交差・交流し、社会価値につながる種をうみだす未来共創施設です。200名規模のイベントを受け入れ可能なイベントスペースをはじめとする、4つの要素からなる共創空間を備え、「問い」を起点とした独自プログラムと、東京大学・東京工業大学・慶應義塾大学・早稲田大学・東京都市大学などの連携により、新しい価値の創造、クリエイティブ人材の育成を目指します。また、2027年度に整備予定の第Ⅱ期(中央棟)の「情報発信・先端技術発信施設」、「国際交流施設」、第Ⅱ期(西棟)の「観光支援施設」とともに、渋谷から世界に情報発信をしていく中心機能を担います。

地下2階～14階は、営業面積約32,000㎡の都市型商業施設です。変化と創造の街・渋谷にふさわしく、心が躍り心に響く旬感を体験できる「世界最旬宣言」をビジョンとします。コンセプトは「ASOVIVA(アソビバ)」。常に変化を感じることができるポップアップスペースを複数設けるなど、時代の最旬を求めて渋谷に集まる遊び心いっぱいの人々を、いつでも“VIVA”なキモチにさせる施設を目指します。

17階～45階は、賃貸面積約73,000㎡、基準階面積は最大約2,900㎡(約870坪)のハイグレードオフィスです。渋谷最大級の広さに加え、渋谷駅直結・直上の高い利便性を誇り、入居企業のブランド価値を高めます。また、日本の成長を牽引する企業が集結し、渋谷が新たなオフィスのブランドエリアとして確立することを目指します。

本施設の開業に伴い、渋谷駅や歩行者デッキなどの各階をエレベーターやエスカレーターによって結び、地下やデッキから地上に人々を誘導する、街に開かれた縦軸空間「アーバン・コア」を整備します。すり鉢地形である渋谷の縦移動の拠点とし、街の回遊性を高めます。

本施設は、「混じり合い、生み出され、世界へ」をコンセプトに、世界中に知られる日本を代表する名所、渋谷のスクランブル交差点に面する新たな「SQUARE(街区/広場)」として、渋谷の中心からムーブメントを発信し、新たな文化を生み出すステージとなることを目指します。

詳細は、別紙の通りです。

【別紙】

展望施設（14階・45階・46階・屋上）

「渋谷最高峰約230m。空と一体になる体験型展望空間 SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」

日本最大級の屋上展望空間(約2,500㎡)を有し、渋谷最高峰の地上約230メートルを誇る展望施設が渋谷の中心に誕生。スクランブル交差点や、富士山、東京スカイツリー®など、360°一望できるパノラマビューを実現し、空と一体となる圧倒的解放感・浮遊感を提供します。また、デジタルテクノロジーを演出に用い、来場者の感覚を刺激する体験型空間など、雨天でも楽しめる屋内展望施設(約3,000㎡)も兼ね備えます。SHIBUYA SKYは、世界中の人々が集まるスクランブル交差点を眼下におさめ、渋谷のダイナミズムを体感できる新たな街のシンボルになることを目指します。



▲SHIBUYA SKY 俯瞰イメージ



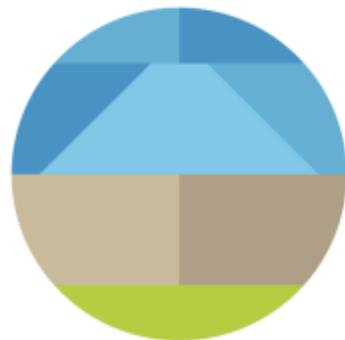
▲SHIBUYA SKY スクランブル交差点を見下ろすイメージ

■名称

SHIBUYA SKY／渋谷スカイ

■ロゴデザイン

ロゴデザインは、漢字の「空」をモチーフに、水平・垂直・斜めの分割線で構成した「スカイグリッド」によって作り上げています。さまざまな形からなる正円の「空」の造形は、大地とそこから広がる青空を表現しています。



SHIBUYA
SKY

▲SHIBUYA SKY ロゴデザイン

「問うことが、未来を創る SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)」

多様な人たちが交差・交流し、社会価値につながるアイデアや新規事業などを生み出すことを目指した未来共創拠点、SHIBUYA QWSが誕生します。SHIBUYA QWSが大切にしている価値「問いの感性(Question with Sensibility)」を磨き、渋谷ならではの多様なバックグラウンドや活動領域の人たちが混じり合うことで、分野を超えた新しい発想による知の融和、価値の創造、クリエイティブ人材の育成を目指します。

1.多様な人たちが交差・交流し、共創するコミュニティ「Scramble Society(スクランブルソサエティ)」

SHIBUYA QWSは、年齢やジャンルを問わず、渋谷に集い活動するグループのための拠点です。コミュニティコンセプトを「Scramble Society」とし、グループ間の交流や領域横断の取り組みから化学変化が生まれ、未来に向けた価値創造活動を加速させます。

2.「問い」を起点とした独自のプログラム

物事の本質を探究しその問題発見に取り組むことを、SHIBUYA QWSでは「問い」と定義しています。よりよい未来の創造へ向けて「問い」の発見から解決の種を共創するまでを、SHIBUYA QWS独自の多彩なプログラムにより、学びから実践まで一気通貫でサポートします。

3.社会実装を目的とした「実証実験」

渋谷の街や渋谷駅を結節点に広がるリビングラボと連携するなど、社会と双方向の交流を行いながら未来の種を検証する、「実証実験」の機会を提供することで、社会実装の実現を目指します。

4.「クリエイティブ人材」の育成

SHIBUYA QWSでは「クリエイティブ人材」=「『問い』が立てられる人」と定義します。領域の異なる多様な個が出会い、思考や哲学が交わる「知の交差点」の役割を担うことで、新たな価値を創造する人材の育成を目指します。

5.大学をはじめとした外部パートナーとの連携

SHIBUYA QWSは、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学の5大学と連携します。上記の取組みも含め、多様な外部連携先とともに、渋谷におけるさらなるオープンイノベーションの実現に向けた検討を推進していきます。

■名称

SHIBUYA QWS／渋谷キューズ

■ロゴデザイン

ロゴデザインは、漢字の「問」をモチーフに、水平・垂直・斜めの分割線で構成した「キューズグリッド」によって作り上げています。そのシンボルは、QWSの頭文字である「Q」、対話・発信を表した「吹き出し」によって形作られています。色は本質的「問い」を発見・解決するための冷静な思考力をブルー、「問い」を解決し新たな未来を牽引するクリエイティブ・成長力をイエロー、自分自身の考えをしっかりと持ち常にチャレンジし続けている芯の強さをダークグレー、新たな価値を生み出そうとさまざまな要素とコミュニケーションを図る調和力をライトグレーで表現した4色を設定しています。



▲SHIBUYA QWS ロゴデザイン

■フロアコンセプト(フロア面積 約2,600㎡)

SHIBUYA QWSは共創空間に必要な要素を、「QUEST:探究する場所」、「WORK:活動する場所」、「SALON:社交する場所」そして「TOWNHALL:全体の結節点となる場所」の4つと定義しました。活動や対話が活性化し、イノベーションを創発する空間を提供します。

①QUEST: 探究する場所

200名規模のイベント受け入れが可能な、活動の成果を披露するイベントスペース

②WORK: 活動する場所

プロジェクトベースのグループワークに特化した活動拠点

③SALON: 社交する場所

多種多様な人による交流、対話の場

④TOWNHALL: 全体の結節点となる場所

施設の玄関口となり、利用者とゲストをつなぐ縁側的な空間を果たす場



▲SHIBUYA QWS イベントスペースイメージ



▲SHIBUYA QWS サロンイメージ



▲SHIBUYA QWS タウンホールイメージ

■シンポジウムの開催について

SHIBUYA QWSの目指すビジョンを発信し、渋谷を舞台としたオープンイノベーションへのさらなる期待感を醸成することを目的としたシンポジウムを開催します。東京都知事 小池百合子氏の基調講演をはじめ、さまざまな角度からイノベーションをテーマにしたトークセッションを実施します。

名 称 : SHIBUYA QWS SYMPOSIUM “Innovation District シブヤ”

開催日時 : 2018年12月2日(日)13:30~19:00(13:00開場)

開催場所 : 渋谷ヒカリエ 9階 ヒカリエホール ホールB

入 場 料 : 第一部 無料 第二部 1500円(税込) *いずれも事前予約制・先着順

プログラム : 第一部

1)基調講演 東京都知事 小池 百合子氏

2)渋谷スクランブルスクエア第I期(東棟)15階 SHIBUYA QWS 概要説明

3)トークセッション

・問いからはじまるイノベーション

・知的邂逅からはじまるイノベーション

・シブヤからはじまるイノベーション

4)ご挨拶 渋谷区長 長谷部 健氏

第二部 ネットワーキングタイム

予 約 方 法 : 右記URLよりお申込みいただけます <http://shibuya-qws-symposium.peatix.com>

*** 当イベントについてのご取材など、お問い合わせはPR事務局までご連絡ください。**

商業施設「渋谷スクランブルスクエア ショップ&レストラン」(地下2階~14階)

「“VIVA”なキモチにさせる、遊び心あふれる ASOVIVA(アソビバ)」

フード、ファッション、ライフスタイル雑貨や、カフェ・レストランなど、地下2階~14階の16フロアで展開する営業面積約32,000㎡の都市型商業施設です。常に時代の最旬が集まり、ここでしか巡り会うことができないモノ・コト・トキを提供します。

■ビジョン

世界最旬宣言

流行という名のもとに絶えず流れ込む情報、世界中から集まる人々、特別で新鮮に感じられるモノ・コト・トキ。多彩な最旬に出会えるこの街を「日本一訪れたい街」にするために、心が躍り心に響く旬感を体験できる「世界最旬の商業施設」をつくります。

■コンセプト

ASOVIVA

時代の最旬があふれる渋谷で、「憧れ」や「ワクワク感」を求めて訪れたお客さまを“VIVA”なキモチにさせる、遊び心あふれる「3つの遊び場」を提案します。

- ①今、ここでしか触れられないモノが見つかり、特別な気持ちになれる「買い場」としてのASOVIVA
- ②大切な人と大切な時間を共有し、尊敬・感謝・共感を深める「過ごす場」としてのASOVIVA
- ③自分の価値観がいつでも刺激されるコト・トキに出会える「集いの場」としてのASOVIVA

■ターゲット

時代の最旬を楽しむ「シブヤな人々」

シブヤな人々とは、渋谷の近くに住んでいる、渋谷で働いている、もともと渋谷で遊んでいたなど、渋谷に愛着や接点がある人々です。

■MDディレクション

<ゾーニング>

DAILY5(日常性+発見性)

日常を彩り、いつ訪れても新しい発見と出会い、特別を感じられるゾーン

STORY6(物語性+回遊性)

さまざまなストーリーを持つモノ・コト・トキに触れ、回遊を通じて共感を醸成するゾーン

DESTINATION5(目的性+滞在性)

大人の知的好奇心や食への探求心を満たし、渋谷らしいコミュニティでつながるゾーン

<MDテーマ>

STREET MIND

ストリートを軸に発展し、自発的にトレンドを創り出してきた渋谷らしいマインドを表現

BORDERLESS SELECT

固定概念にとらわれず、自由な新しい発想で「自分らしさ」をセレクトできる場を実現

TIMELESS STYLE

時代を超えて愛されるモノや価値を取り入れ、自由に組み合わせしていくスタイルを発信



▲商業施設MDディレクション

■ポップアップ・イベントスペース

ビジョンである「世界最旬」を体現する場として、週から月単位でテナントを入れ替えるポップアップスペースや、本格的な厨房を備えるなど、多様なニーズに対応可能なイベントスペースを複数区画展開。新しい、まさに最旬なモノ・コト・トキを、このスペースから提供します。



▲商業施設イベントスペースイメージ

【渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期(東棟) 施設概要】

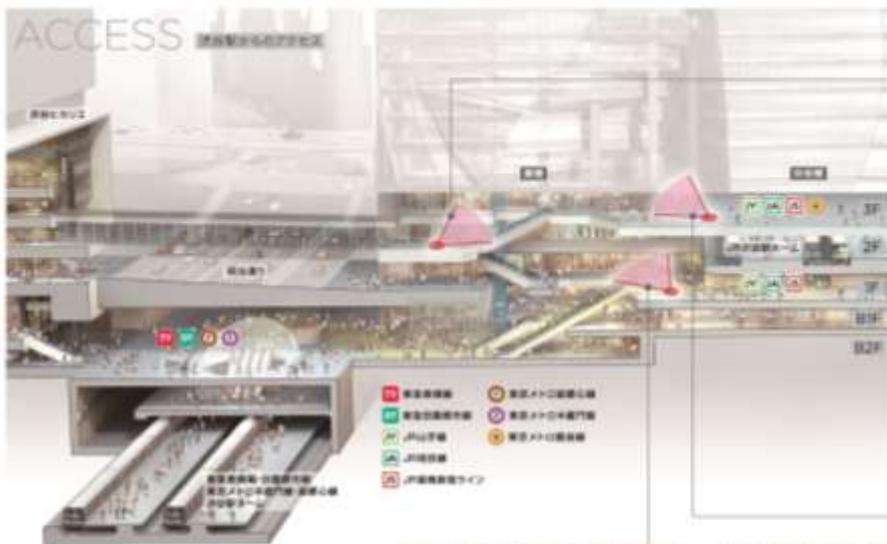
名称: 渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE 第Ⅰ期(東棟)
 事業主体: 東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社
 所在: 東京都渋谷区渋谷二丁目23番 外
 用途: 事務所、店舗、展望施設、駐車場など
 延床面積: 約181,000㎡ (参考 全体完成時 約276,000㎡)
 階数: 地上47階 地下7階
 高さ: 約230m
 設計者: 渋谷駅周辺整備計画共同企業体
 (株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)ジェイアール東日本建築設計事務所、メトロ開発(株)
 デザイナー: (株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA事務所
 施工者: 渋谷駅街区東棟新築工事共同企業体(東急建設(株)、大成建設(株))
 運営会社: 渋谷スクランブルスクエア株式会社
 * 東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社の3社共同出資
 開業: 2019年秋



▲外観イメージ(宮益坂交差点方面より望む)



▲施設構成イメージ



▲1階アーバン・コアイメージ(北側より)



▲2階アーバン・コアイメージ(渋谷セカリエ連絡通路出入口ロより)



▲3階アーバン・コアイメージ(西側より)

2018年11月15日

報道関係者各位

道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合
東急不動産株式会社

道玄坂一丁目駅前地区第一種市街地再開発事業

ビル名称を「渋谷フクラス (SHIBUYA FUKURAS)」に決定

～100年に1度と言われる再開発が進む渋谷で、訪れる人々の幸福を膨らませる場所に～

道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合と、同組合の組合員および参加組合員として参画している東急不動産株式会社(本社:東京都港区、社長:大隈 郁仁)は、共に事業を推進している「道玄坂一丁目駅前地区第一種市街地再開発事業」(以降、本プロジェクト)のビル名称を、「渋谷フクラス(SHIBUYA FUKURAS)」(以降、本ビル)に決定したことをお知らせいたします。



「渋谷フクラス」ロゴ



「渋谷フクラス」外観(北東側)イメージ(日中/夜)

「渋谷フクラス」という名称には、「膨らす(膨らます)」という日本語から、渋谷および本ビルを訪れるすべての人々の幸福を大きく膨らませていきたいという思いを込めました。

本ビルの建築コンセプトは「小さな物語の集積」です。多様な人や文化が混在し、集まり成長していく過程で小さな物語が生まれ、その集合体が街をかたどっていく渋谷のように、小さな結晶体が集まりビルの外観が形成されていきます。ロゴマークは、街のエネルギーが凝縮された、結晶体のような本ビルの外観から「膨らむ結晶体」を表現。ロゴカラーのシルバーは、洗練・品格・先進の印象を打ち出すとともに、すべての色(個性)を輝かすことのできる柔軟性や多様性を表現しました。

これまで多くの流行や文化を生み出し、成長してきた渋谷において、現在、東急グループは「エンタテインメントシティ SHIBUYA」を掲げ、100年に1度と言われる再開発を関係者と協力して推進しています。渋谷の魅力である「多様な人・文化・個性の混在」を活かし続け、世界を牽引する新しいビジネスやカルチャーを発信することが渋谷再開発のビジョンです。

本プロジェクトが目指すのは新しいだけの渋谷ではなく、これまで渋谷という街で生み出されてきた結晶体のような小さな物語を集め、さらには世界中のあらゆる人や企業を受け入れながら、そこに集う人々の「幸福」を未来に向けて「膨らませていく」場所です。渋谷を訪れる国内外の多くの人々を迎える玄関口として、来街者の快適さを重視した街と人をつなぐ仕掛けを取り入れ、多くの交流を生み出し、街ににぎわいを創出します。



■ 「渋谷フクラス」 名称・ロゴマークについて

ふくらす。それは「膨らます」を意味する日本語「膨らす」。新たなトレンドの発信拠点・渋谷で、自分らしく暮らすことで得られる「幸福」を、本ビルを介して大きく膨らませていく。あらゆる人々が豊かな人生を楽しめる場所、「渋谷フクラス」。

ロゴは、建築コンセプトである「小さな物語の集積」のように、訪れる人の想い・物語が原石として集い、凝縮されて、一人ひとりの「幸福」が膨らんでいく結晶体を表現しました。



■ 道玄坂一丁目駅前地区第一種市街地再開発事業 概要

2019年秋の竣工を予定している本プロジェクトは、旧東急プラザ渋谷および隣接する街区を一体開発するもので、東急グループが関係者と共に推進中の渋谷駅周辺再開発のプロジェクトのひとつです。

本プロジェクトにおけるビル名称は「渋谷フクラス(SHIBUYA FUKURAS)」です。約5,000坪を誇る9～16階のオフィスフロアには、GMOインターネットグループの入居が決まっています。また17階には、新しいビジネスを生み出す拠点となる産業進出支援施設を備えます。クリエイティブコンテンツ産業や外国企業の進出拠点となる施設を整備することで、企業やクリエイターのスタートアップとなる場を創出します。

2～8階、17・18階には、新時代のニーズに応える商業施設に進化して生まれ変わる「東急プラザ渋谷」が入ります。人生100年時代と言われ、世界に先駆けて超高齢化社会を迎える日本では、人々の価値観やライフスタイル、消費行動が大きく変化する、新しい時代に突入しています。そのような状況の中、新「東急プラザ渋谷」は「都会派の感性が成熟した大人たち」をターゲットに、新しいライフスタイル「MELLOW LIFE」を提案していきます。

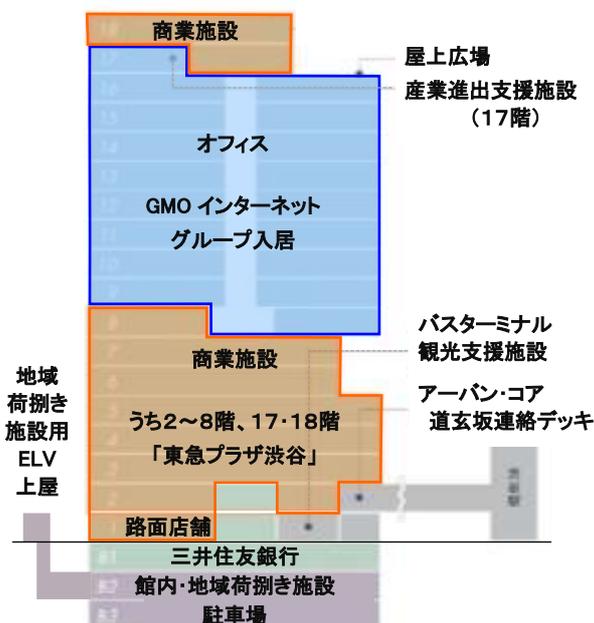
また、低層部は、路面店舗が街の賑わいを創出するとともに、地下1階～2階には三井住友銀行が入居予定です。

さらに本プロジェクトでは、本ビル内および周辺にて地域貢献施設の整備も進めてまいります。エレベーターやエスカレーターにより多層な都市基盤をバリアフリーで上下に結ぶアーバン・コア、渋谷駅と本ビルおよび周辺エリアをつなぐ道玄坂連絡デッキを整備。本ビルをハブとして、渋谷駅や周辺エリアへ上下左右に移動しやすい歩行者ネットワークを実現します。

本ビルの1階には、一般路線バスや空港リムジンバスも乗り入れる予定のバスターミナルを設置。手荷物預かり、観光案内などの機能を備えた観光支援施設を併設し、渋谷駅周辺の国際競争力を一段と高めます。

また、本ビル周辺の一部街路についても、来街者が誰でも安心して巡れる憩いの場として再整備を行います。本ビルの地下2階には、地元商店街への配送業者が利用可能な地域荷捌き施設を設置し、来街者の安全性・快適性や街の回遊性を向上し、本ビル周辺の地元商店街の賑わいを創出します。

こうした取り組みを通じて、本プロジェクトでは、渋谷を訪れる多世代やインバウンドの人々にとって渋谷駅西口の新たな玄関口となるとともに、多様性という渋谷の魅力をより一層高めることができるよう、地域とともに賑わいある街並みづくりを進めてまいります。





アーバン・コア



道玄坂連絡デッキ(渋谷駅側から)



国道246号線側



バスターミナル



北西側周辺街路



西側周辺街路及び地域荷捌き施設用エレベーター上屋



街路整備範囲(図中黄色部分)

※掲載画像はすべてイメージです

■ 事業概要

道玄坂一丁目駅前地区第一種市街地再開発事業

事業主体	道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合
所在地	東京都渋谷区道玄坂一丁目38番(地番)
用途	店舗、事務所、駐車場等
敷地面積	約3,336㎡
延床面積	約58,970㎡
階数	地下4階～地上18階(建築基準法上は19階)
高さ	約103m
設計者	デザイナー・アーキテクト: 手塚建築研究所 マスター・アーキテクト: 株式会社日建設計 設計・監理: 清水建設株式会社一級建築士事務所
施工者	清水建設株式会社
竣工	2019年秋(予定)

計画地

